

「一つ目国」の悲劇

ある旅人が、旅の途中で道を見失い、  
不思議な国に迷い込んでしまいました。

その国は、一つ目人間の国だったのです。

その国の住人は、誰もが、目が一つしかない人々であり、  
旅人のように目が二つある人間は、  
一人もいなかったのです。

その国に迷い込んだ当初、  
旅人は、変わった風貌の住人を見て驚き、  
そして、しばらくは、  
彼らを不思議に思って眺めていました。

しかし、その国で過ごすうちに、  
旅人は、だんだん孤独になってきました。

自分だけが二つの目を持つことが  
異常なことのように思われてきたのです。

そして、その孤独のあまり、  
ついに、その旅人は、  
自ら、片方の目をつぶし、一つ目になったのです。

この旅人の悲劇は、決して、  
遠い彼方の国の物語ではありません。

なぜなら、  
我々も、しばしば、  
この旅人のように、  
自ら、片方の目をつぶそうと考えてしまうからです。

自分自身であることの孤独。

そのことに、耐えられず、  
自分自身であることを  
やめようと考えてしまうのです。